



第11回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 報告 「これからの交流会を考える」

2017年9月30日(土)午後、国立看護大学校（東京都清瀬市）で「たまエンド・オブ・ライフ・ケア交流会」を開催しました。近隣の病院・療養所・教育機関から看護職15名が参加しました。

今回は、これまでの交流会をホームページで振り返り、また北多摩北部地区の看護職を対象としたアンケート調査についての報告がありました。その後、参加者同士で、日々の実践で感じている課題と、これからのエンド・オブ・ライフ・ケア交流会に対する希望について、意見交換を行いました。

①交流会からの挨拶

(元 救世軍清瀬病院 看護部長 笠原嘉子)

司会・ファシリテータ

(救世軍清瀬病院 がん性疼痛看護認定看護師 相良君映)

②話題提供：

「これまでの交流会の概要」報告

(国立看護大学校 老年看護学教授 綿貫成明)

ホームページをもとに、この交流会立ち上げの経緯と、これまでの10回の交流会のテーマや内容についての紹介がありました。

「これからの交流会を一緒に考える」

(国立看護大学校 成人看護学助教 長岡波子)

エンド・オブ・ライフ・ケアに対する看護職の困難感を調査したところ、認知機能の低下した高齢者の意志決定や症状コントロールの評価などが、特に難しいと感じていました。

交流会では、特に家族・遺族のケア、高齢者のケアを学びたいと感じており、知識を得るだけでなく、他組織の人と情報や意見を交換したり、事例を検討したいなどの希望がありました。



③意見交換

- ・エンド・オブ・ライフ・ケアの課題は広く深いので、単発の研修だけでなく、5~6回シリーズの研修が有効です。
- ・<生き方ノート>を作成し、それをもとに職員が患者・利用者の人生をどうサポートしていくかを検討しています。
- ・病院だけでなく、在宅の訪問看護、福祉施設での看取りも増えています。看護・介護の多職種で学ぶ合うことが必要です。
- ・終末期医療をどこまで行うか、本人・家族・医療者が何を求めているかを明確にし、すり合わせ歩み寄ることが必要です。



参加者の感想

- ・地域の他施設の方々と学び、情報を共有することが意義深いと思いました。
- ・現場の悩み、問題は多々ありますが、どこでも同じであることを改めて実感しました。
- ・医療制度や診療報酬などといった、仕組みの課題も大きいことを感じました。
- ・地域のネットワークを活かして、成功体験から学ぶ勉強会ができるとうれしかったです。

次回もお待ちしております。
たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会
救世軍清瀬病院
河端みのり・相良君映・大石恵子
国立看護大学校
飯野京子・綿貫成明・長岡波子

次回第12回交流会のご案内
2018年1月20日(土) 14時 於 国立看護大学校
詳細は <http://tama-elc.umin.ne.jp/> もご覧ください。